

厚生労働省 三重労働局発表

平成 30 年 3 月 2 日 (金)

担 当	厚生労働省三重労働局職業安定部
	職業安定課長 田中 秀治
	職業安定課長補佐 杉本 公紀
	地方労働市場情報官 上村ひろみ
	電話 059-226-2305

報道関係者 各位

## 「雇用情報モニター報告集計結果(平成 29 年度第 4・四半期)」

三重労働局では、県内企業・経営者団体等に雇用情報モニターを委嘱し、企業活動の実績と見通し、雇用動向等についての報告を、年 4 回（四半期毎）提出いただいております。

このたび、平成 29 年度第 4・四半期（30 年 1 月～3 月）実績見込み及び次期（30 年 4 月～6 月）見通しの集計結果を取りまとめましたので公表します。

### 調査結果 主な項目の概要

#### ○ 受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 22.2%で減少、「減少」が 14.8%で横ばい。D I（「増加」－「減少」）は 7.4。前期と比べ 5.6 ポイント下降。次期見通しは 0.0 で下降予想。

#### ○ 販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 23.6%で減少、「減少」が 14.5%で減少。D I（「増加」－「減少」）は 9.1。前期と比べ同水準。次期見通しは▲5.5 で下降予想。

#### ○ 企業収益の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 25.5%で増加、「減少」が 16.4%で減少。D I（「増加」－「減少」）は 9.1。前期と比べ 10.9 ポイント上昇。次期見通しは▲7.2 で下降予想。

#### ○ 稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 25.9%で減少、「減少」が 11.1%で増加。D I（「増加」－「減少」）は 14.8。前期と比べ 5.5 ポイント下降。次期見通しは 11.1 で下降の予想。

#### ○ 設備投資の見込み

「ある」が 36.4%で 5.4 ポイント減少。「ない」は 40.0%で 3.6 ポイント増加。D I（「ある」－「ない」）は▲3.6 で 9.0 ポイント減少。

#### ○ 従業員の過不足判断

「不足」が増加、「やや不足」が増加。  
D I（「過剰」－「不足」）は▲40.9 となり、8.2 ポイント減少（不足判断が増加）。  
次期見通しは▲38.9 で「不足」判断は減少の予想。

#### ○ 雇用調整の状況

実施事業所は 1 事業所（1.9%）で、前期の 1 事業所（1.8%）と同数。

## ○資料

別添 「平成 29 年度 雇用情報モニター報告集計」

## ○参考

- ・調査対象 地域経済にかかわりの深い企業の中から公共職業安定所長の推薦により労働局長が委嘱した、民間企業及び事業主団体
  - ・調査方法 調査票により、モニターから公共職業安定所長に郵送等により提出
  - ・調査時期 平成 29 年度第 4・四半期実績見込み及び次期（平成 30 年 4 月～6 月）見通しについて
  - ・モニター内訳 建設業 2、製造業 44、小売業 5、サービス業等 4、事業主団体等 7
  - ・回答状況 民間企業 55 社、事業主団体等 7 団体
- （注）集計結果には、業種別等の偏りがあると思われるのでご了承ください。

# 平成29年度 雇用情報モニター報告集計

平成29年度 第4・四半期  
三重労働局職業安定部職業安定課

29年度第3・四半期(29年10月～12月 以下前期)においては、多くの指標のD I(「増加」-「減少」)はプラスとなりましたが、29年度第4・四半期(30年1月～3月 以下今期)においても、多くの指標のD I(「増加」-「減少」)はプラスとなりました。

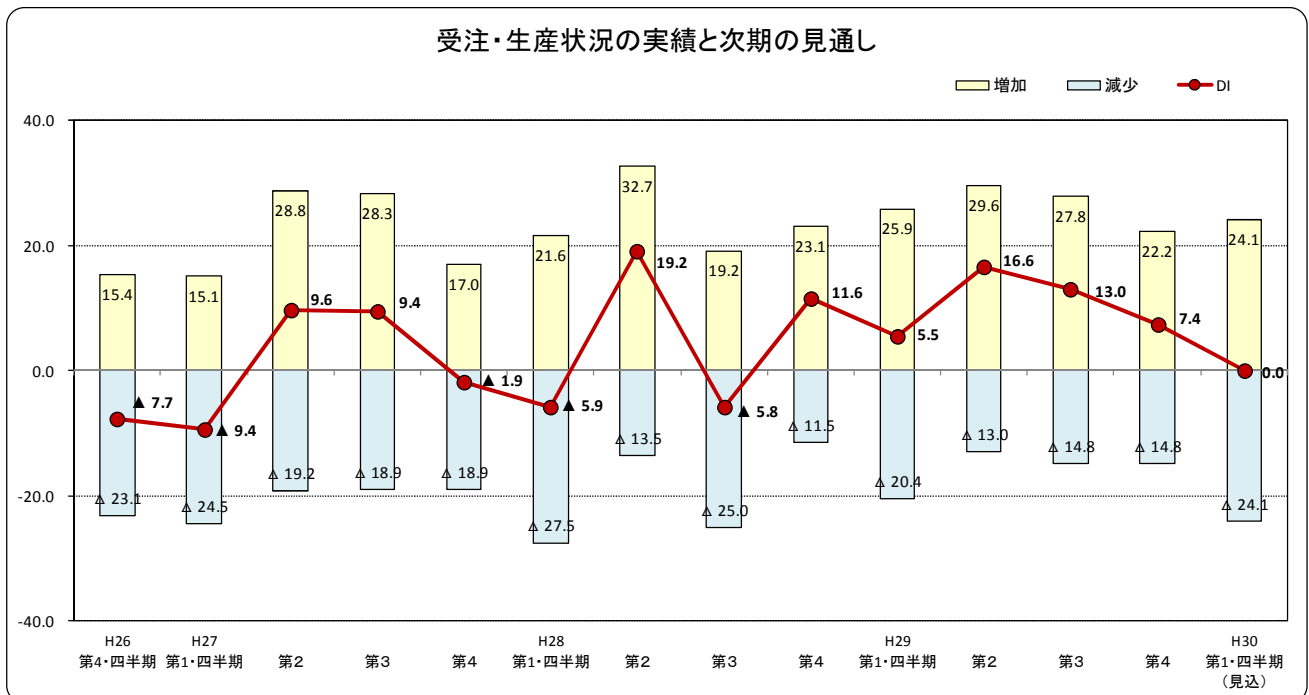
次期の予想においては、多くの指標で下降の見通しとなっています。

## 1. 受注・生産動向について

### 【受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の受注・生産状況では、「増加」が22.2%、「減少」が14.8%で、D I(「増加」-「減少」)は7.4となり、前期と比べ5.6ポイント下降し、5期連続でプラスとなりました。

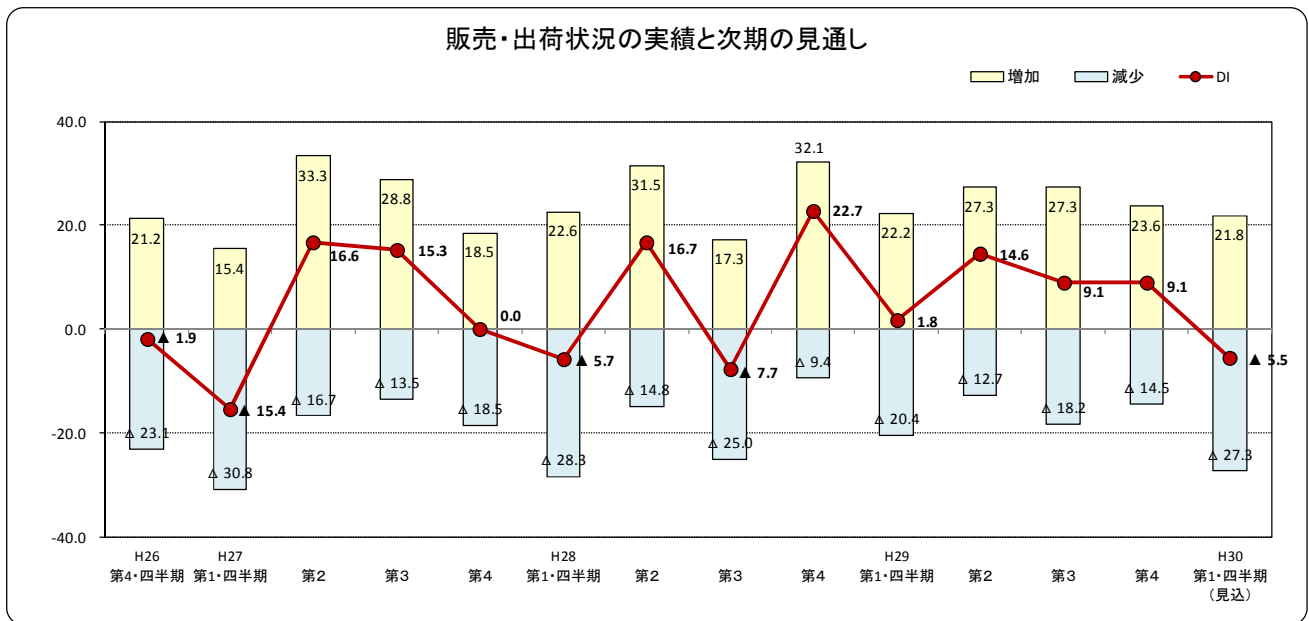
次期の見通しについては、D Iは0.0で、下降する予想となっています。



【販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の販売・出荷状況では、「増加」が23.6%、「減少」が14.5%で、D I（「増加」-「減少」）は9.1となり、前期と同水準で推移し、5期連続でプラスとなりました。

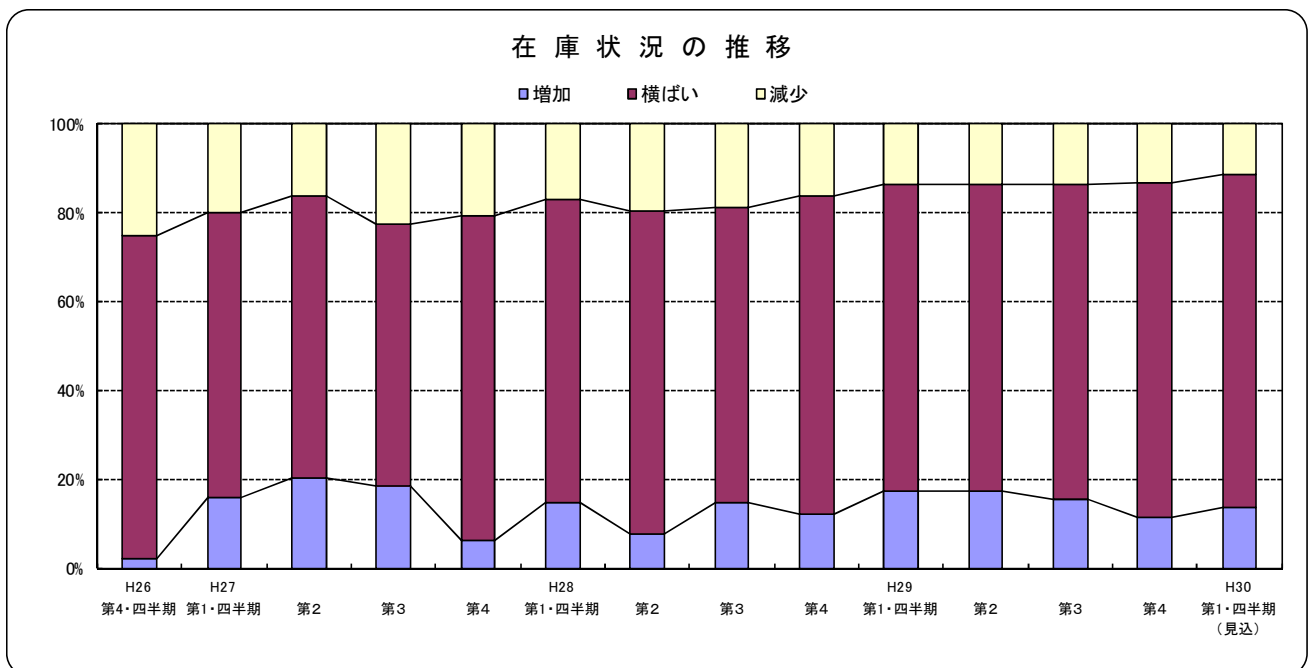
次期の見通しについては、D Iは▲5.5で、下降する予想となっています。



【在庫状況】

今期の在庫の状況についてみると、「増加」が減少、「減少」が減少、32期連続して「横ばい」が最も多くなりました。

次期の見通しについては、「横ばい」が減少し、「増加」が増加する予想となっています。

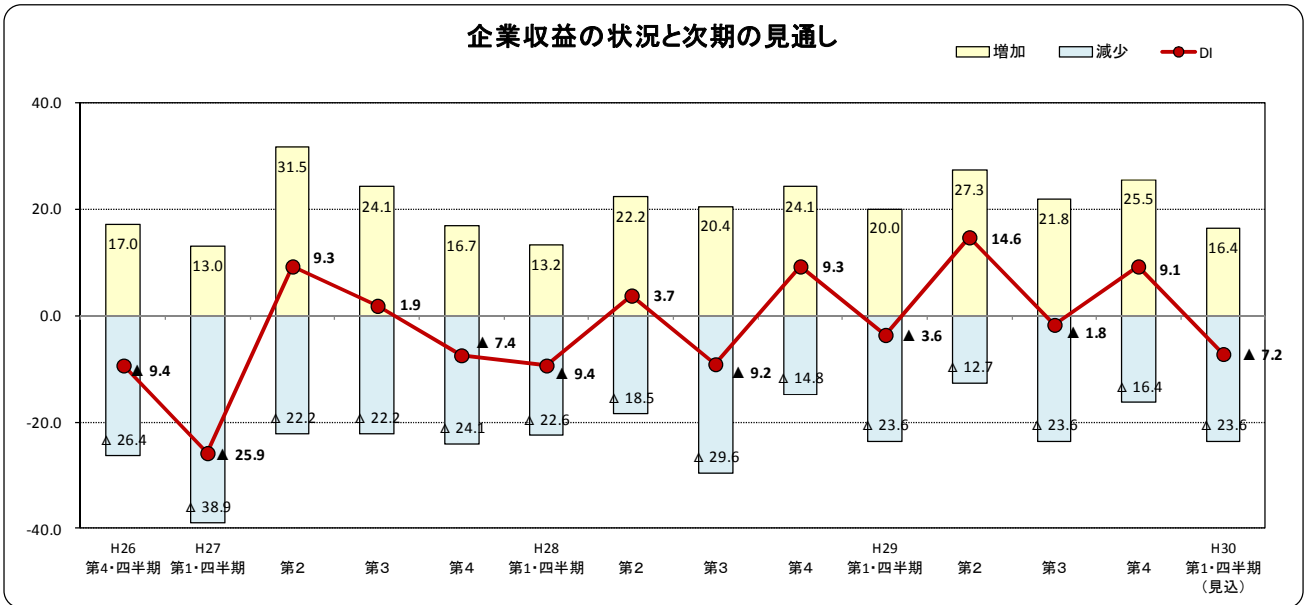


## 2. 企業活動の状況について

### 【企業収益の実績見込みと今後の見通し】

今期の企業収益の状況では、「増加」が 25.5%、「減少」が 16.4%で、D I（「増加」－「減少」）は 9.1 となり、前期と比べ 10.9 ポイント上昇し、2 期ぶりにプラスとなりました。

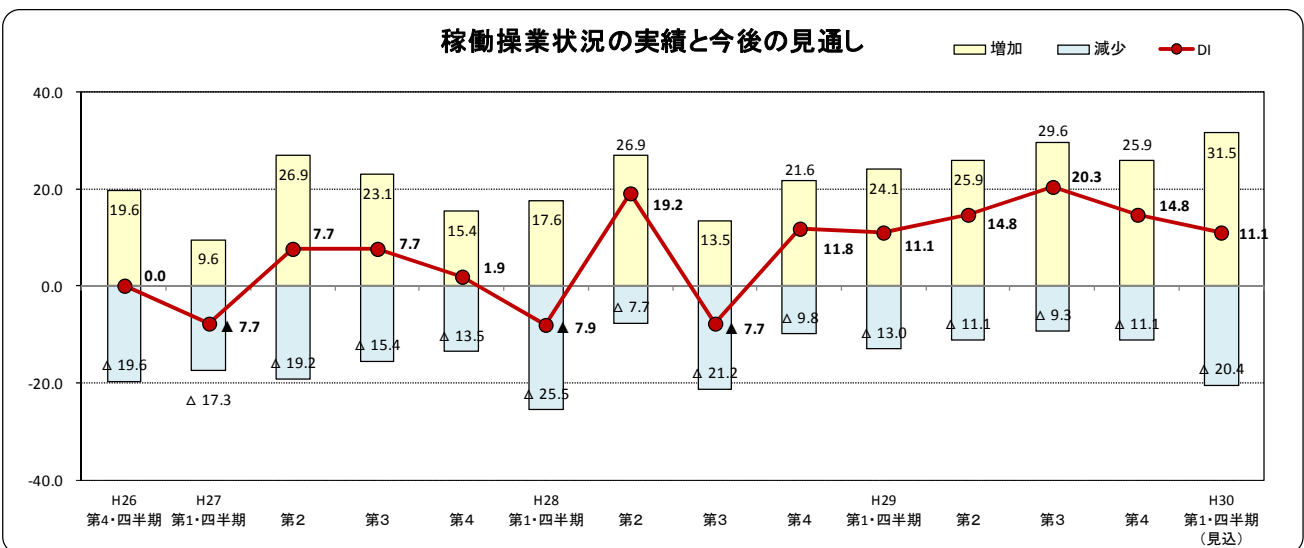
次期の見通しについては、D I は▲7.2 で、下降する予想となっています。



### 【稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し】

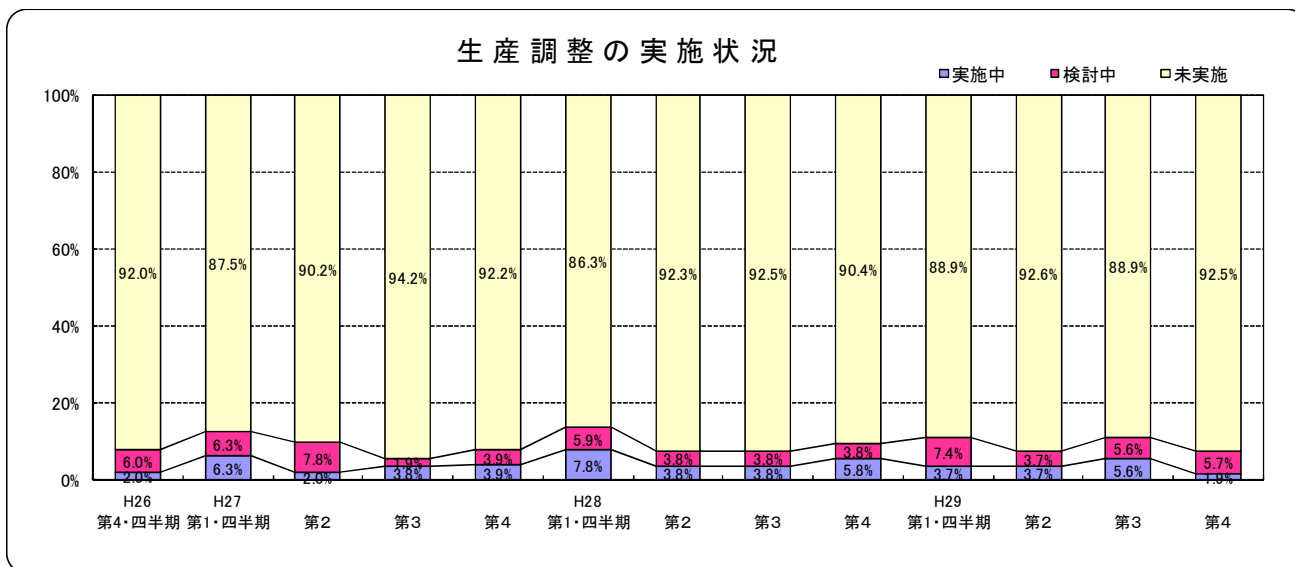
今期の稼働操業状況では、「増加」が 25.9%、「減少」が 11.1%で、D I（「増加」－「減少」）は 14.8 となり、前期と比べ 5.5 ポイント下降し、5 期連続でプラスとなりました。

次期の見通しについては、D I は 11.1 で、下降の予想となっています。



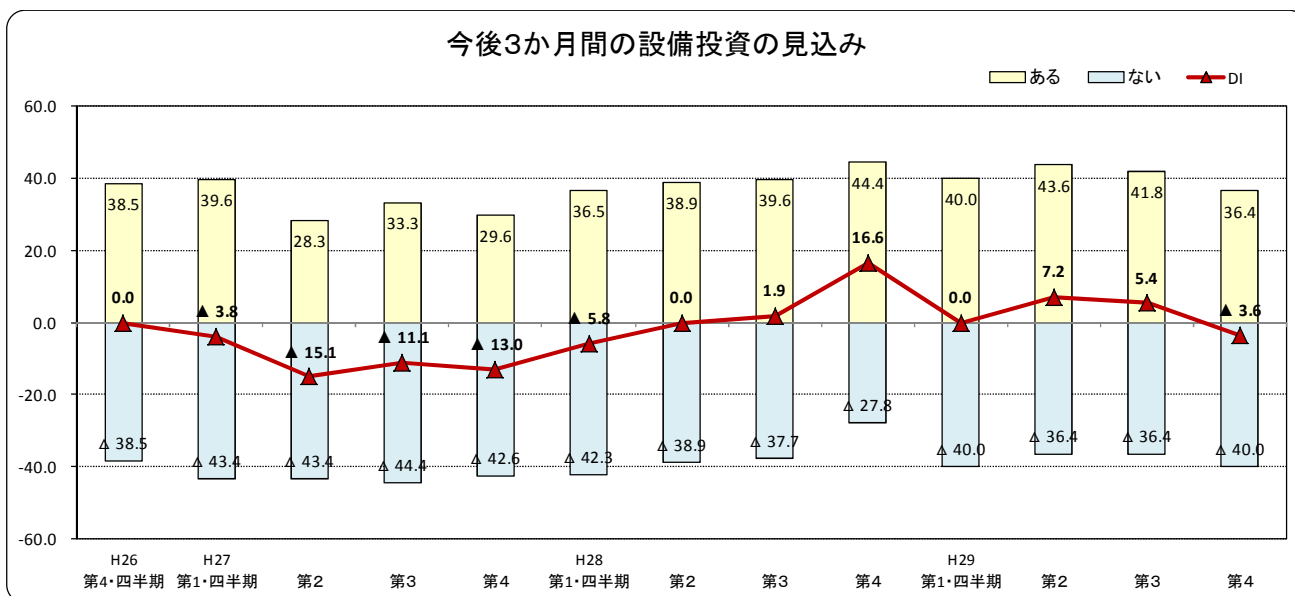
### 【生産調整の状況】

生産調整を「未実施」とした事業所は、今期は92.5%で前期と比べ3.6ポイント増加、「検討中」は5.7%で0.1ポイント増加、「実施中」は1.9%で3.7ポイント減少となりました。



### 【設備投資の見込み】

今後3か月間の設備投資の見込みでは、「ある」とする事業所の割合は36.4%で前期と比べ5.4ポイント減少、「ない」とする事業所の割合は40.0%で3.6ポイント増加、D I（「ある」-「ない」）は▲3.6となり、前期と比べ9.0ポイント減少しました。

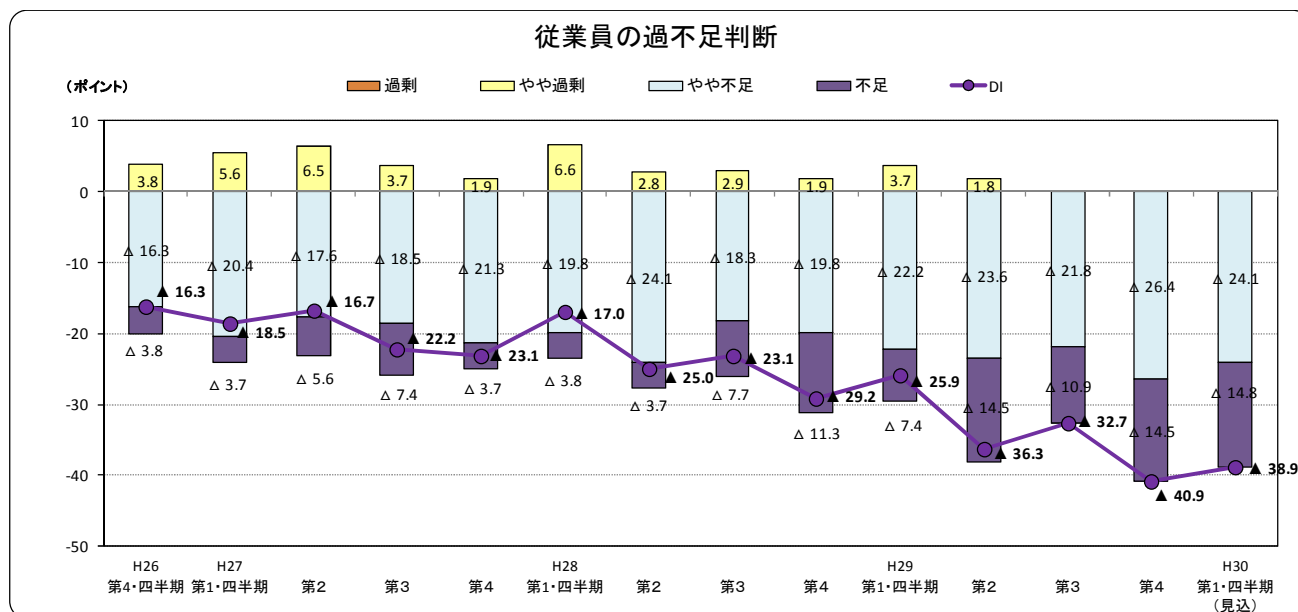


### 3. 雇用動向について

#### 【従業員の過不足判断】

「過剰」は 0.0 ポイントで横ばい、「やや過剰」とする事業所は 0.0 ポイントで横ばい、「不足」は 14.5 ポイントで 3.6 ポイント増加、「やや不足」とする事業所は 26.4 ポイントで 4.6 ポイント増加したため、D I（「過剰」－「不足」）は▲40.9 となり、前期より 8.2 ポイント減少（不足判断が増加）し、20 期連続で不足判断が過剰判断を上回りました。

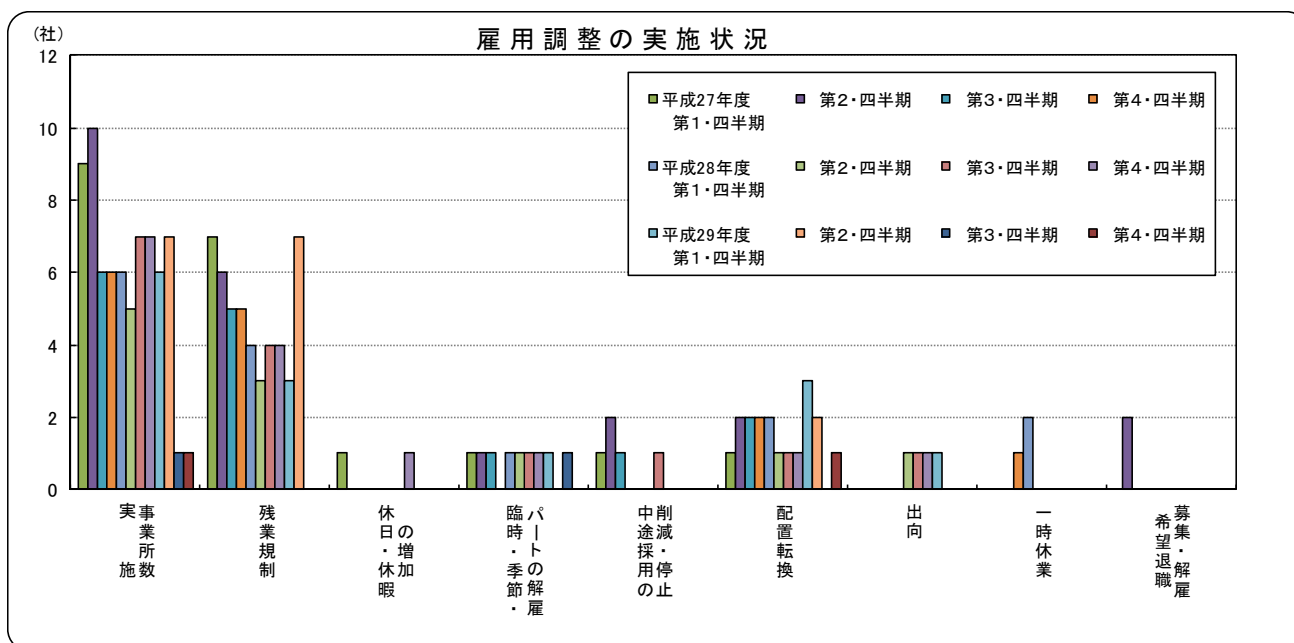
次期の見通しについては、D I は▲38.9 で、「不足」判断は減少の予想となっています。



#### 【雇用調整の状況】

雇用調整を実施している事業所数は、今期は 1 事業所 (1.9%) で、前期の 1 事業所 (1.8%) と同数となりました。

	合計	実施なし	予定あり	実施事業所数	残業規制	休日・休暇の増加	臨時・季節・パートの解雇	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業	希望退職募集・解雇
平成27年度 第1・四半期	51	40	2	9	7	1	1	1	1	0	0	0
第2・四半期	51	40	1	10	6	0	1	2	2	0	0	2
第3・四半期	50	44	0	6	5	0	1	1	2	0	0	0
第4・四半期	52	45	1	6	5	0	0	0	2	0	1	0
平成28年度 第1・四半期	48	40	2	6	4	0	1	0	2	0	2	0
第2・四半期	52	44	3	5	3	0	1	0	1	1	0	0
第3・四半期	51	43	1	7	4	0	1	1	1	1	0	0
第4・四半期	53	45	1	7	4	1	1	0	1	1	0	0
平成29年度 第1・四半期	51	42	3	6	3	0	1	0	3	1	0	0
第2・四半期	53	45	1	7	7	0	0	0	2	0	0	0
第3・四半期	55	52	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0
第4・四半期	53	52	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0



<主なコメント>

○大口製品の製造が佳境となり、稼働率がさらに上がる見込みであるが、人手不足の状態は続いている。(製造業)

○新規受注を検討しているが、そのためには設備投資が必要となってくる。また、引き続き求人募集をしているが応募者は少ない。(製造業)

○季節的な要因から、今期は受注・生産、販売・出荷状況など全般で減少となった。(製造業)

○前期は高水準の受注・売上とも好調であったが、今期は取引先の中国が旧正月を迎える2月中旬までは需要が下がるため、前期と比較して売上・収益とも下がる傾向にあるが、旧正月あけより需要は急激に回復し業績も前年度同期より増加するものと予想するのに併せて、3月以降は積極的に採用活動を再開する予定。(製造業)

○集合住宅向けの受注が好調であるが、正社員求人するも応募者がいない状況。(製造業)

○世間で言われているような好景気の実感はなく、生産・出荷とも前年割れの水準。景気の影響は受けにくく安定していたが、国内競争激化などの影響を受けている。また、収益が減少する中で、電気料金、人件費は上昇しており利益を圧迫している。(製造業)

○野菜高騰により冬物商品の売れ行きが厳しい状態。春物商品の動きに期待。(製造業)

○企業収益は、円高の影響により増加見込みであるが、今後の先行きがわからない。(製造業)

○人手不足が続いており、時間単価を含めその他の労働条件の改定を行った。(製造業)

○短期での離職者や転職者が増加しており人員が不足している。人員確保が非常に難しい状況。(製造業)

○競争店オープンのため売上は減少し在庫は増加。(卸売業, 小売業)

○伊勢志摩サミット効果の反動により、昨年6月頃から横ばい状態が継続している。(宿泊業, 飲食サービス業)

○採用が困難な状況は継続している。(医療, 福祉)